

研究速報

食道癌に対する helix pomatia agglutinin
結合性の免疫組織化学的検討

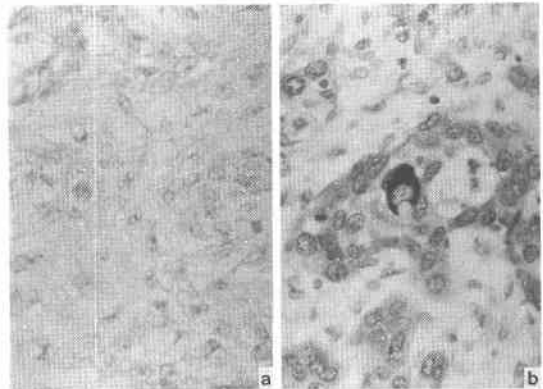
吉田 泰憲 岡村 健 白日 高歩

はじめに: Helix pomatia agglutinin (HPA) は Roman snail (helix pomatia) より抽出されるレクチンの一種で, 細胞膜の糖鎖抗原と選択的に結合する。乳癌に対する HPA の免疫組織学的検討で, HPA 陽性例はリンパ節転移および遠隔転移を起こしやすく, 予後不良である事が報告された¹⁾²⁾。しかし食道癌ではこの点に関する報告はまだみられない。そこでわれわれは, 食道癌に対する HPA 結合性と癌の浸潤・転移との関連性を検討した。

対象と方法: 対象は当科にて切除手術を施行した原発性食道癌のうち表在癌10例, 進行癌20例である。材料は10%ホルマリン液固定パラフィン包埋ブロックより厚さ3 μ mの薄切切片を作成した。脱パラフィン後0.3% H₂O₂加メタノール液にて内因性ペルオキシダーゼを阻害し, 次いでABC法による HPA 酵素抗体染色を行い HPA 陽性細胞の有無, 程度について検索した。なお, 病理組織学的検討は食道癌取扱い規約に従った。

結果: HPA の染色性の程度を陽性細胞の出現の有無と分布の範囲から次の4つに分類した。(−): 全く存在しないもの, (+): 陽性細胞が部分的にみられるがその分布の範囲が癌巣の50%以下のもの, (++) : 陽性細胞が部分的にみられるが癌巣の50%以上に分布しているもの, (+++) : 癌全体に分布するもの。m癌3例中2例が(−), 1例が(+)で, sm癌7例中6例が(−), 1例が(+)であったのに対し, mp~a₃癌20例中(−)例はなく, (+): 8例, (++) : 7例, (+++) : 5例であった。進行癌の(+)症例では, 癌先進部に陽性細胞が多い傾向がみられた。リンパ節転移との関係を見ると(−)例ではn₀+n₁が87.5%(7/8)と多いのに対し, (+)および(++)例ではn₂が多く, それぞれ50%(5/10), 57%(4/7)を占め, さ

Fig. Immunohistological findings: Esophageal cancer cells with HPA staining; a, negative; b, positive (×400)



らに(+++)例ではn₃以上が多く60%(3/5)を占めた。

考察: 本研究の結果, 表在癌10例では HPA 陽性例の頻度は20%にすぎなかったが, mp以上の進行した20例においては全例 HPA 陽性を示し, またリンパ節転移も陽性細胞出現の程度に比例して高度化したことより, HPA 陽性細胞は乳癌のみならず食道癌の進展・転移にも関与していることが示唆された。

Key word: lectin binding on esophageal cancer

文献: 1) Leatham AJ, Brooks SA: Predictive value of lectin binding on breast cancer recurrence and survival. Lancet 9: 1054-1056, 1987 2) Fukutomi T, Itabashi M, Tsugane S et al: Prognostic contributions of Helix pomatia and carcinoembryonic antigen staining using histochemical techniques in breast carcinomas. Jpn J Clin Oncol 19: 127-134, 1989

Immunohistochemical Study of Helix Pomatia Agglutinin Binding on Esophageal Cancers

Yasunori Yoshida, Takeshi Okamura and Takayuki Shirakusa

The Second Department of Surgery, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health

<1991年3月13日受理> 別刷請求先: 吉田泰憲 〒807 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1 産業医科大学第2外科